

議員（村井 保夫）

4番 村井 保夫、一般質問を始めます。

質問は2問あります。

1点目は、農業問題について、2点目は、瀬戸内芸術祭についての2点質問します。

まず1点目、農業で心配なのは、何といたっても後継者問題です。現在我が国の農業就業者は高齢化が進み、65歳以上の高齢者が6割を占めていると言われています。農業には、農業生産だけでなく、景観の保持や環境の保全など、多面的な機能があります。また、ため池や水路、祭りなど地域社会の維持においても重要な役割を果たしていると思います。こうしたことから、農業を守っていくことは重要であります。そのためには農業の担い手を確保していかなければなりません。

そこで、本町において、農業の担い手確保策としてどのようなことに取り組んでいるのかお伺いします。

産業課長（谷口 賢司）

ただいまの村井議員の農業の担い手確保についてのご質問に答弁させていただきます。

本町では、農業の担い手確保のために幾つかの事業を行っております。新規就農希望者に対しましては、香川県中讃農業改良普及センターや香川県農業協同組合と協力して、就業計画の立案等の支援相談会を行うなど、認定新規就農者として、就農のサポートをしております。今年度は葛原地区で1名が就農予定であり、これを含めてこれまでに4名が認定新規就農者の認定を受けております。

次に、地域の農地を守る重要な担い手である認定農業者や農事組合法人等に対しましては、それぞれの農業経営改善計画に基づく農地集積などの経営規模の拡大や経営の安定化のために必要な色彩選別機や大型田植え機等の高性能農業機械の導入に対する補助を行っております。また、今後の法人化が期待できる任意の集落営農組織につきましても、関係機関と連携して、スムーズに法人化出来るよう支援を行っております。さらに、農地の集約化につきましても、香川県農地中間管理機構より農地を借り受けた担い手に対して、10アール当たり2万円の補助を行うなどの支援を行っております。一方、住環境の保全事業に関しましては、農村地域の過疎化や高齢化等により、水路清掃等の地域共同活動に対する農家の不安が増加し、地域資源の保全の管理の低下が懸念されております。その対策となる日本型直接支払制度の地域活動の助成となる多面的機能支払交付金を活用している活動組織が7団体、中山間地域等直接支払交付金を活用している活動組織が1組織ございます。この制度は、農業

振興地域のみが対象となっておりますが、その他の地域に対する助成制度のあり方も研究して参りたいと考えております。

以上のような事業を通じて、担い手を手厚くサポートするとともに、これからの農業経営の可能性や魅力等の情報発信方法も検討して参ります。また、農繁期の短期的な労力確保につきましては、農事組合法人等がハローワークや教育機関の保護者等に短期就労の依頼方法を研究するなど、様々な手法を検討しているところでございます。以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

担い手新規就農者の確保といっても、なかなか進まないのが現状だと思います。農業の機械を購入するにしても、相当な初期費用が必要になります。家族で農業をしても、収入が少ないのが現状だと思います。香川県農協は、3年から5年計画で売り上げ1,000万円以上の農家を100人以上増やす目標を立てていますが、家族経営が多い中、1,000万円では少な過ぎる、また生活が厳しく、少なくとも1,500万円から2,000万円ぐらいに目標を上げてはと言いましたが、これは通りませんでした。これは、JAの問題ですので返答は要りません。認定農業者など大規模農家に農地を集積していく中で、農地中間管理機構の集積方法の中で農地の整備、例えば2枚の田んぼを1枚の田にする補助があると思いますが、そういう申請は今までになかったのですか。これは、地籍調査が済んだら、もう衛星で分かると思うんで、これから利用しやすいように、2枚を1枚にしていく必要もあるのではないかと思うのでお伺いします。

産業課長（谷口 賢司）

ただいまの村井議員さんの再質問でございます。

恐らく基盤整備のお話をされているのだと思います。今のところ本町の方に基盤整備の要請があったことはございません。ただし、議員さんおっしゃるとおり、これからは基盤整備というのは、新たな農家さん、また農家の収益を上げるためには必要な問題になってこようかと思っております。それについては、今後とも産業課の方としては、県の状況、国の状況を確認しながら対応していきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

議員（村井 保夫）

有難うございました。

これからの農業事業が変動する中で、新しい補助が出るようであれば、早く皆さんに知らせてあげて下さい。また、多度津はブドウの産地として有名ですが、農業従事者の高齢化に伴い耕作放棄地がたくさんありましたが、今までどれくらいの耕作放棄地がオリーブ畑になったのでしょうか。また、最近ではビワが増えているところもあると思いますが、オリーブ栽培以外の耕作放棄地対策は何か考えているのですか、お答え願います。

産業課長（谷口 賢司）

ただいまの質問でございますが、オリーブの植栽面積でございます。これは、平成26年9月に農事組合法人多度津オリーブ生産組合が組織されております。耕作放棄地対策と致しましては、平成21年11月から対策をしております。現在のオリーブの植栽面積でございます。平成29年度末で11.31ヘクタールです。尺貫法で言いますと11.4町、分かりやすく言いますと甲子園3個分というような形になって参ります。そこで、今オリーブの搾油でございますが、オリーブの搾油は、29年度実績で1,300Kℓおろされておるようでございます。今年度状況を聞いておりますと、木が成熟しているというところで、このオリーブオイルの搾油も順調に29年度を上回っているということでございます。その他の耕作放棄地対策で植栽されているものはないかというご質問でございますが、今のところ本町と致しましては、このオリーブの植栽を優先的に進めているところでございますので、本町が進めているというものはございません。ただし、ブドウに関しましては、やはり消費者の好みが変わってきておりますので、以前あったデラウェアから今人気のある大粒のブドウの方に変ってきているようでございます。以上でございます。

議員（村井 保夫）

有難うございました。

先ほどの答弁の中で、農地を借りた担い手に対して、1反当たり2万円の補助があると聞きましたが、これは法人認定者に出ます。ぜひ法人認定者以外でも出して頂くことを今後考えてもらいたいと思います。また、地域活動の助成となる多面的機能支払交付金及び中山間地域等直接支払交付金、これも農業振興地域のみの対象です。これからはぜひ農業振興地以外にも農地はたくさんあるので、農振地以外での補助金が出るようお願い致します。これは要望であります。

次、2点目は瀬戸内国際芸術祭2019についての質問です。

瀬戸内国際芸術祭2019は、30の国、地域から184組のアーティストが参加し、歌やダンスなどのパフォーマンスを多く取り入れることや、県産食材を使った新しい料理の提供など、さらに魅力を増して来年4月26日から11月4日まで、春、夏、秋の3会期の計107日開催され、会場は前回と同様の12の島と高松、宇野港周辺を予定しているとの発表がありました。実行委員長である浜田知事は、心癒やされる風景の中で作品や島々の歴史、文化、そこに暮らす人々との出会いを楽しんでほしいと言われました。また、北川総合ディレクターは、参加型イベントの特徴を磨き、地元の食材や伝統も取り入れていきたいと意気込みを語ったとのことでもあります。多度津町での開催は3回目の参加となりますが、高見島における開催内容を、今分かる範囲でお答え頂きたいと思

います。

町長（丸尾 幸雄）

村井 保夫議員の瀬戸内国際芸術祭2019についてのご質問に答弁をさせていただきます。

来年行われる瀬戸内国際芸術祭2019では、前回同様、高見島におきまして「ひろがる秋」として、秋会期に開催を致します。開催期間につきましては、前回までの31日間から7日増えた9月28日から11月4日までの38日間開催と致します。展示作品につきましては、今現在、京都精華大学と北川フラム総合ディレクターとの間で作品の内容及びどの場所でこういった作品を製作するのか、幾つぐらいの作品数になるのかなどの詰めの段階であると聞いており、前回同様、京都精華大学関連作品として、継続作品を含む、おおむね10作前後の作品、また新規作家さんの1作品と展示換えの作家さんの1作品、さらに今回は開催する全ての島で外国の作家さんが携わることを基本としておりますので、合計12から13作品が展示されると想定をしております。また、来場者につきましては県の公式発表によると、2013年度が2万4,371人、2016年度が2万1,028人でしたので、来年の芸術祭は、開催期間が長くなることもあり、来場者の数は2万5,000人から3万人前後を予想しているところであります。さらには、前回の芸術祭閉幕以降、高見島応援団さざえ隊の方々による定期的な花壇の手入れや有志の方々による祇園社から竜王山への登山道整備、本島、粟島の方々と連携協力した長距離を移動する蝶であります、アサギマダラが飛来する環境づくりなど、多くの方々の積極的な協力の中で総来場者数が3万人を超えることも視野に入れた体制づくりを今後構築したいと考えております。ちなみにではありますが、前回の芸術祭時には多い日で795人の来場者がございました。さらに、京都精華大学とは包括的連携協力に関する協定を結んでいることから、開催前若しくは開催中に高見島以外でも作品展示を模索しているところであり、実現すれば、高見島だけでなく、町全体の賑わいづくりの一助になるのではないかと考えております。また、そのような中、現在芸術祭開催期間中において、来場者が開催エリア以外にも足を運んで頂けるよう、割引協力施設を町ホームページで募集をしているところでございます。会期が長くなり、来場者が増えると予想されますので、当然のことではあります。スタッフの増員が必要になることから、今までより多くの方々のご協力を頂かなければならないと考えております。議員の皆様方におかれましては、前回、前々回に引き続き、作品受け付け業務などにご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げて、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

瀬戸内国際芸術祭は4回目で、当初から北川総合ディレクターは島おこし

のイベントであると言っていました。高見島での過去2回の開催では、どのような成果があったのか、また開催地である高見島の人々はどのような感想を持ったのか、さらには今回の開催に向けて高見島の人々はどのような感想を持っているのか、さらに今回の開催に向けて高見島の人々からの意見は反映出来たのかどうかお伺いします。

議長（志村 忠昭）

町長が言うん。誰が言うん。

政策観光課長（河田 数明）

ただいまの再質問に答弁をさせていただきます。

過去2回の成果と致しましては、先ほど答弁でも町長の方から申し上げましたとおり、たくさんの来場者があり成功のうちに終わっていると考えております。また、島の方々の感想でございますが、こういう中で島の方々と協力して参っております。そういう中で、色んな意見を反映させながら、次へつなげていっておりますので、非常に協力を得ているというところでございます。また、今回の島の方々の感想ですが、先ほども答弁の中で申しましたとおり、島の中の方々が色々な活動をして頂いて、整備等に携わって頂いておりますので、これを町の方としても重く受けとめまして、芸術祭を成功に導きたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（村井 保夫）

高見島でのアートや高見島の景観は評判であったと思いますが、今回の瀬戸内国際芸術祭の開催によって、多度津の活性化や移住・定住の促進にどのように活用するのかお伺いします。

町長（丸尾 幸雄）

村井 保夫議員の再質問にお答えをして参りますが、今これまでの中でどういことが良かったことがあったのかということもありますけども、その中で島出身の方が帰って来られます。たくさん帰って来られます。また、高見島には小学校、中学校がありましたので、そこで教鞭を振るった元先生方、そういう方々も帰って来られて、そして懐かしく、また私どもの手伝いといったらおかしいのか、色々と接待のお手伝いもして頂いております。そういう風に高見島というところがもう一度懐かしい島として皆様に見直されて、そして親しまれたのではないかなど。ただ、やはりこの人口減少時代でありますから、本当に住んでいる方というのは段々と減少しております。しかし、そういう中で今もさざえ隊のお話を申し上げましたが、地元の方々が本当に積極的に協力をして頂いております。この議員の皆様の中にもさざえ隊の方が名前はいませんが、入ってらっしゃっております、そして高松のサポートの方でのアピールですね、宣伝とかそういうところまでやって頂いていること

に対しましては、心から感謝をしているところであります。そして、今回はもう少し場所を広げようと、高見島だけでなくネコノシマホテルのある佐柳島、また多度津町内にも足を運んで頂きたい、この瀬戸内国際芸術祭の目的というのは、島の活性化並びに地域の活性化です。ですから、そういう中におきましては、多度津町の高見島で開催をする。今回3回目となりますので、今回は佐柳島のネコノシマホテル、今、村上さんご夫妻が一生懸命活性化のために行って頂いております。そのことの手助けにもなりますし、多度津町の中で色々と私どもの町内の業者の方々のお助けになったり、またそのようなことも作品、京都精華大学との連携協力の中での行う行事になりますので、瀬戸内国際芸術祭での県の主催で高見島で行うものが瀬戸内国際芸術祭です。しかし、それだけでは町全体に広がりませんし、活性化になりませんので、京都精華大学と包括連携協定を結んでいる。そういう関係を利用して、高見島以外にも京都精華大学の作品を展示したい。このことは北川フラムさんにもお話をしておきまして、了承は得ているところであります。そういう風に色々と今回、多度津町という名前を町外に発信していきたいと思っておりますので、これも地方創生、たどつの輝き創生総合戦略の中で多度津町全体で盛り上げていきたいと思っております。先ほど申し上げましたが、今回も議員の皆様方のご理解とご協力、ご尽力を心からお願い申し上げます、村井 保夫議員の答弁とさせていただきます。よろしくお願い致します。

議員（村井 保夫）

大変有難うございました。

これからは回数を重ねるごとに多度津の活性化や移住・定住が進むことを願って、今回の質問を終わります。

有難うございました。